

令和3年度 第3回磐田市行政経営審議会 議事録

日時 令和3年9月6日（月） 18時30分から20時30分まで

出席者 委員13名

秋元富敏 委員、浅野真人 委員、飯田昌弘 委員、井上佳子 委員

岡本一夫 委員、杉本達男 委員、鈴木敦之 委員、砂川利広 委員

高柳裕久 委員、竹内育代 委員、永井新次 委員、村上勇夫 委員

鷺崎早雄 委員

事務局（企画部長、秘書政策課長、秘書政策課グループ長）

進行：秘書政策課長

1 開 会

2 定足数の確認

3 会長あいさつ

4 議事

- ・第2次磐田市総合計画後期基本計画（案）について分科会での審議
分野4、分野5、分野6、分野7

5 その他

6 閉会

分野4 健康・福祉

Cグループ

秋元委員、井上委員、砂川委員、永井委員

現状と課題、方向性、指標・目標値

- 分野の名称だが、施策の順番だと、「福祉」の次に「健康」の順番になっている。健康・福祉という内容であるならば、施策の順番を変えた方がいいのではないか。
- 健康と比べて、福祉の割合が多いのが気になった。健康をもう少し盛り込めないか。
- 「高齢者」や「障がい者」の言葉が、分野を通じて出てくるが、磐田は外国人が多いので、「労働者・外国人」の活字も入れた方がいいのではないか。
- 分野の方向性で「相談できる体制づくり」を進めると書いてあるが、指標にないので、そのつながりが気になる。
- 現状の問題に対する具体的な対策がわかるようになってきているといいと思う。

基本施策1 地域福祉の推進

- 児童委員・民生委員などでは限界がある。企業に呼びかけをしてもいいのではないか？
企業を退職された方には、いろんなスキルを持った方がいる。どんな人がどんなスキルをもっているか調べて、そういう方がやってみたい気持ちをお互い伝えたりできることを重点的にやってもらいたい。
- 「高齢者の憩いの場、せいかつ応援倶楽部」などの高齢者が地域で過ごす場所と「子育てサロン」ということで、高齢者と子どもと別々に記載されているが、主な取組みには、高齢者のみになっている。ふれあいサロンには担い手不足などの課題があり、地域で子どもを見ていく体制が無い中で、もう少し子どもと高齢者の両方を絡めた施策があってもいいと感じた。
- 小中一体校構想の中には、「開かれた学校」ということも含まれている。そこには地域の方が寄る、見守るなどのことも含まれているため、「地域開放エリアの設定」とか地域のふれあいとして、入れていくことはできないだろうか。
- 生活保護や生活困窮者のところなので、「貧困問題」に限定をしているが、貧困以外にも、例えば外国籍の方の言語の問題とかは、地域づくりの一つにはならないかと気になった。

- 「自立に向けた相談体制の充実や関係機関との連携強化」のところで、県の「フードバンク事業」が、磐田市はあまり連携されていないので、強化してほしい。生活困窮と就労支援まで見えてくる。
- 自殺者が多い現状。自殺予防・根絶するために「ゲートキーパー」について書いていけないか。

基本施策2 高齢者福祉の充実

- 「生きがいづくり」というのはものすごい大事。老人クラブ活動の「老人」に少し引っかかる。「シニアクラブ活動」もしくは、「クラブ活動」でもいいのかも。福祉の充実はもちろん大事だが、体を動かす環境づくりもして欲しい。健康寿命も延びてくることにつながると思う。
- 「生きがいづくり」と「介護予防」と別次元の印象がある。施策が別でもいいかと思う。
- 「移動手段の確保」、「家族介護負担の軽減」とあるが、在宅で医療を受け続けたいときに、往診をしてくれる先生が少ないと思うので、「在宅医療の充実」を盛り込めるといいと思う。
- 「移動手段の確保」の検討とは、現在デマンドタクシーがあると思うが、他に何をやっていくのか。移動スーパーの話は聞いたことがあるが、移動難民の問題は重要だと思う。
- 在宅で医療を受けるために在宅医療の充実を念頭に置いてほしい。

基本施策3 障がい児者福祉の充実

- 子どもに関するものが出ていないので、「子育ての分野」に記載があるかもしれないが、再掲でもいいので載せることはできないか。
- 基本施策の方向のところで、「共生社会」の言葉が入れないか。
- 「磐田版農福連携」について、農業と企業と連携できないか。
- 「磐田版農福連携」が言葉からイメージできないので、言葉の意味を補足してほしい。

基本施策4 健康づくりの推進

- 健康づくりの視点で、週に何時間運動をしましょうとか、目標を達成できた人に施設の利用券や買い物券を配るとかの補助施策があってもいい。将来の医療費負担が減ると思う。
- 学校給食にパンではなく、ごはんをもっと増やせないか。和食が注目されているので健康と切り離せないと思う。

基本施策5 地域医療体制の充実

- 一番問題なのは、災害時の医療体制だと思う。行政・医療機関・地域がもっと連携した訓練をやっていくことが重要。「災害時の医療体制」をもう少し膨らますことはできないか。総合病院と行政とタッグを組んでできることを考えて欲しい。

その他

- 福祉分野では8050問題が注目されている。高齢者と障がいを持った人との複合的な課題を抱えている家族の問題。高齢者や障がい者は、虐待リスクが上がり対応方法も違う。高齢者虐待、障がい者虐待、児童虐待と、同じ家庭にいるけれども対応方法が違う。緊急的な一時避難の場所とかは、権利擁護の意味で、住みやすい地域づくりの観点では必要なかと思う。

分野5 防災・消防・安全安心

Bグループ

浅野委員 岡本委員 鈴木委員 村上委員

基本施策1 危機管理・防災対策の推進

- コロナに関する取組みが無いので、今回のコロナ被害を教訓にした取組みを加えて欲しい。
- 情報伝達手段の多重化・多様化に関しては、同報無線やスマートフォンなど、具体的に分かりやすく記載して欲しい。また、ラジオも伝達手段の一つとして継続して欲しい。
- 実際に地震災害が発生した場合、家屋倒壊による被害などから市民を救うのは、近所の人や自主防災組織であると聞いている。自主防災組織を市が支援する取組みを具体的に記載して欲しい。
- 賃貸アパートの住人などは、地域に対する意識が希薄になり、防災への意識も希薄になる傾向がある。意識の希薄な方でも参加しやすい取組みが必要と考える。
- 地域での活動の中で、管理している消火栓ホースの老朽化が良く目につく。ホースの更新に対する補助金の導入を検討して欲しい。
- 今後、少子高齢化が進むことで、磐田市にも限界集落がでてくることも考えられる。限界集落になってからでは行政の支援も難しくなるため、その前に手を差し伸べるような取組みが必要ではないか。

基本施策2 消防・救急体制の充実

- どこの地域でも、消防団員の確保に頭を悩ませている。ただやみくもに団員を募集するのではなく、本当に必要な人員を見極め、不足している人員を確保する仕組みをつくる必要がある。

基本施策3 市民生活の安全・安心の確保

- 地域の防犯活動や交通安全運動を推進するため、ボランティア人材の確保が課題となっている。ボランティアに参加する方が目標や張り合いをもって活動できるようにするためにも、例えば、ボランティア活動に参加するとポイントが貯ま

り、貯まったポイントを地元商店などで利用できる「ポイント制度」の導入を検討してはどうか。

その他

○災害や防災の情報は「いわたホットライン」が有効な情報伝達手段であると認識している。この分野の指標として、ホットラインや磐田市の SNS への登録率を設定してはどうか。

分野6 都市基盤・環境

Aグループ

飯田委員、杉本委員、高柳委員、竹内委員

全体

○見たときに、その施策が何をするのか、市民が見たときに何をするのかパッとわかりやすい、インパクトがあるような形にしていくことも必要ではないか。

指標・目標値について

○ほとんどの分野で基本施策ごとに指標があるが、分野6では6つの基本施策のうち5つしかない。住環境の分野に関する指標がない。各基本施策に最低1つは目標が必要ではないか。

○住宅用太陽光導入件数について、FIT法の関係もあるが、発電システムの導入件数が指標として適当か疑問がある。

○優先的に取り組むべき課題を指標にすることが必要。汚水処理人口普及率について90%を越えており、再度指標にする必要があるのか疑問。一定の成果が挙げられていることから、別の重要な取組みを記載すべきではないか。(例えば空き家対策やCO2排出量)

○「計画的な土地利用に満足している市民の割合」は、そもそも、多くの市民は「計画的な土地利用」について理解していないと思われるため、指標として疑問がある。

○脱炭素について、磐田市のスタンスを強調していくべき。KPIとしてもCO2の排出量くらいは記載すべきではないか。

○重点を置く内容を指標として記載してもらいたい。

基本施策1 計画的な土地利用の推進

○磐田市都市計画マスタープランには「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」型の都市づくりを進めていくとしている。非常に良い言葉だと思うので、目指す方向が明確にするために、この言葉を総合計画に入れると良いと思う。

○土地利用について、「都市計画法に基づく民間開発への適切な指導」は、国土利用計画や都市計画法、農振法など関連する法律がある。乱開発を防ぐためや、産業振興と農業のバランスなど土地利用上の課題もあることから、そのあたりも記載したほうがよいと感じる。ワークショップのような住民意見を取り入れる仕組みが必要ではないか。

○地籍調査について、東日本大震災の際に課題になった。重要なことなので指標化したほうが良い。

基本施策2 公共交通体系と道路網の整備

○磐田市は車社会であることを考えた場合、ボランティア運送に焦点をあてて、交通弱者のために何ができるか、ということ優先的に取り組んでいった方が、今の実態と合っているのではないか。

○「公共交通の充実を図ります」には、交通弱者や高齢者といった言葉がキーワードだと思う。

○SDGsの視点から考えるならば、住環境の点から道路のバリアフリー化や、健康の点から、例えばサイクリングロードの整備などの健康を意識した道路整備など、5年間でできるかは別問題として、道路整備にもSDGsを意識した施策を盛り込んでもいいかという感じがする。

○ボランティアによる運送を実施している自治体も周辺にあるが、事故対応など細かな部分が明確になっていないことが課題になっている。例えば、介護分野での取組みの方法など、枠組みを提示すると取組みやすいのではないかと思う。

基本施策3 良好な住環境の整備

○「安定した市営住宅の供給を推進します」は、市営住宅より一般の賃貸住宅の方が多くことから考えると、「良好な住環境の整備」の2番目の施策として掲載されていることに違和感がある。行革の分野の方が近いのではないか。

○空き家対策について、空き家になってからの対応が記載されているが、空き家になる前の対策についても入れたほうが良いのではないか。

○良好な住環境の整備は、環境や脱炭素に関連する取組みが良いと感じる。例えば文化会館跡地で、ゴミ処理や電力をその場所で賄えたりするミニWovenシティのようなスマート分譲住宅など、磐田のメルクマークになるような大きな取組みを実施してみることも大切。

○磐田市は自然が豊かで、緑化や公園の整備はやりきった感がある。

○総合計画として「緑化」ということについて打ち出すのであれば、これまでの取組みを継続するだけでなく、次の5年間に今までと違う何をするのかということを出すことが必要。

基本施策4 水道水の安定供給と下水道の整備

○他自治体では水道事業の民間委託を実施しているところもあるが、生活に一番大切なものだと思うので、特に上水（飲み水）は民間委託ありきではなく、よく検討することが必要だと思う。

○定期的な上下水道料金の見直しは「主な取組み」として適当か疑問を感じる。

基本施策6 快適な生活環境の確保

○基本施策5と基本施策6で、どちらも「快適な生活環境」という言葉が使われている。市としてどのように定義づけしているのかがわかりづらい。

○今やっていることの継続のことしか書いていないことが気になる。5年間の計画なので、戦略的に取り組む内容や、次のステップとして何をやっていくのか、基本施策ごとに目玉的なものがあった方がいいと思う。

○脱炭素に主に取り組むのは民間企業になるが、企業の中には自社でCO₂をどれぐらいの排出をしているのか計測自体ができないところもある。そのような調査の後押しなど、民間の動きを促すような施策があると良い。

○自然環境の保全について、桶ヶ谷沼やひょうたん池が例示されているが、市全体を網羅するような中で例示を増やしたほうが良い。

○磐田市民は桶ヶ谷沼を知っているかもしれないが、市外の方は知らない方も多い。行政を挙げて自然保護をやっていくのであれば、取組みをもっと市外にPRしたほうが効果的ではないか。

○磐田市を環境という面で見るとき、豊岡地区の山間部の自然や遠州灘海岸を意識する。キーワードが不足しているように感じる。

○ゴミの減量化に向け、外国人も一緒に取り組めるような方法を打ち出したほうが良いのではないか。

分野7 行財政改革

Bグループ

浅野委員 岡本委員 鈴木委員 村上委員

基本施策1 効率的・効果的な行政運営の推進

- 磐田市には、建設から長い年月が経過し、現在はあまり活用されていない公共施設が数多くあると認識している。人口減少が進む中、公共施設の在り方に関しては、市としても思い切った改革が必要な時期にあると考えているが、市民に心の準備をしてもらうためにも、公共施設の今後の方針については市民に分かりやすく周知して欲しいと感じている。
- 行政のデジタル化はこれからさらに加速していくものであると認識しているが、同時に、高齢者などのデジタル弱者に対する配慮も必要不可欠であると考えている。例えば、市役所に支援員を配置するなどの取組みを検討して欲しい。また、個人情報漏洩等のリスクも今まで以上に高まると思うので、リスクマネジメントについても徹底するべきと感じる。

基本施策3 機動的な組織体制の構築と人材の育成

- 計画案からは磐田市がこれから育成していきたい「職員像」が見えてこない。もう少し明確に記載して欲しい。
- 市役所においても、女性職員の活躍できる職場をつくるのがこれからの時代には大切だと考えるため、P20 分野2基本施策5「3男女共同参画を推進します」に記載されている「企業や市役所におけるワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進」をこの施策にも再掲して欲しい。

その他

- 『「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合』は、行財政改革の分野の指標として相応しくないような気がする。「デジタル化による市役所に来る人数の削減」など行財政改革との関係性の高い指標にするべき。

分野4～7に関して（質問）

委員	分野4「健康・福祉」で、この中で基本施策の流れは、「福祉」の次に「健康」となっている。構成上の趣旨があることなのか教えてほしい。
事務局	「福祉」と「健康」が逆になっても、特段問題はないと思う。検討させてもらう。
委員	40ページ。「指標・目標値」の「交通事故件数（幼児～高校生）」の138件の内訳を教えてほしい。高校生の交通事故と小中学生の交通事故だと、意味合いが若干違ってくる。通学路が危険だから起きたのか、それとも単純に不注意が起きたのかで、施策が変わってくると思う。
事務局	後日の回答。 幼児25件、小学生40件、中学生19件、高校生54件
委員	審議会が出た意見により、この基本施策の内容が変わることもあるのか。
事務局	審議会での意見を踏まえて、基本施策や取組みについて変えることもある。
委員	58ページ。行財政改革の「指標・目標値」について。コロナ禍であり、財政上の先行きが心配されている。税収減に加え、コロナ対策の費用が相当かかると思う。この計画を策定するにあたりその影響は含まれているのか。
事務局	財政計画では、この実施計画の後期基本計画に合わせて、財政計画を立てることになる。ここでは直接見えてこないが、財政計画ではコロナの影響も踏まえて計画を立てる予定でいる。
委員	47ページ。「将来を見据えた計画を策定し、推進します」の都市計画マスタープランについて。「市街地の整備の基本方針」のところ で、面的整備計画地区と面的整備検討地区についてだが、面的整備検討地区に関して、みんなが知っていて、みんなが協力してやれば、良い案が出てくると思うが、市で考えていることはあるのか？

事務局	面的整備計画地区については、既に市街化の中で整備をしているところを示している。それから、整備検討地区というのはその周辺で可能性があるところを示しているので、市として何かやるというよりも民間活用をして、今後この周辺で開発等をしていただきたいということ。
委員	<p>今後の予定について。最終的に来年3月に公表していくと思うが、多くの人に知っていただくため、読んでいただくためにどんなPR方法、公表方法を考えているのか。</p> <p>読み手側が見ればということではなく、行政としても、例えば自治会連合会の会議のときや、春先の会議のときになど、より踏み込んだ周知をしてほしい。</p>
事務局	概要版も作成するので機会を捉えて、各種会合へPRしていきたいと思う。

分野4～7に関して（意見）

委員	<p>（分野6）「1 地球温暖化対策を推進します」への意見</p> <p>脱炭素のところだが、市長の所信表明でも、ゼロカーボンシティが表明されているが、現状は、市役所の窓口へは車などを使い、ガソリン使って行っている。わざわざ市役所に行かなくてもいい取組みがあるといい。主な取組みに「住宅用等発電」とか「磐田市環境計画の見直し」とあるが、「DX」をここに入れたほうがいいのではないかと。先ほど指標の中で、二酸化炭素の排出量という話もあったが、それを測ることは難しいと思う。仮に測ることができてもピンとこない。DXを推進して、住民票取得などを、自宅や地域の交流センターなどの歩いて行けるところできるようにする取組みを進めていくほうがいいと思う。そうすることで、市役所も本当に変わった感じを受けると思う。</p>
委員	<p>全体への意見</p> <p>1点目は、分野の最初しか「現状と課題」が書かれていない。現状はともかく課題は、基本施策ごとにある程度書かれていないと、課題を解決するために施策があるので、その具体的なものが事業になると思う。その課題が、各分野に大きな課題でしか書いてない。</p> <p>また、「支援します、取り組みます」とかの表現であり、課題認識的な表現がない。この課題があるから、この課題を解決するために、このような施策を組んでいき具体的な事業をやっていくという、つながりが見えてこないの、「現状と課題」の書き方については、基本施策ごとに現状と課題認識がしっかり書かれるべきだと思う。</p> <p>2点目は、分野4のところ、「コロナ」という言葉が一つもない。やはり来年度からの計画なので、市民目線で見るとき、コロナに対して「ウィズコロナ、アフターコロナ」に対して市の対応が、1番の関心事ではないかと思う。これはあらゆる分野（防災、健康福祉、産業など）に関わってくるので、「ウィズコロナ、アフターコロナ」に対してこの総合計画の中で、序文のところには入っているが、計画の中に対応方法が入っていることが市民の1番の関心事ではないかと思う。</p>

委員	<p>分野4への意見</p> <p>「生活保護とか生活困窮者」についての記載がない。コロナの影響で生活困窮の人たちが増えているので、盛り込んだほうがいいと思う。</p>
委員	<p>全体的な意見</p> <p>言葉・単語が専門的なことでわからないものは、後ろの方に言葉の説明を入れてほしい。部分的に入れるとかなり行数が多くなるので、用語集があってもいいと思う。</p>
委員	<p>全体的な意見</p> <p>どれだけ明確なメッセージを、この総合計画から発せられるか、そのための「言葉遣い、構成の仕方、課題、課題に対する施策、その置き方の問題」など、ある程度の工夫が必要ではないかといった意見が多かったと思う。構成については変えにくいかもしれないが、調整されて、次回、審議会の答申、提言としてどう出すのか考えていかなければいけない。</p>